

出合での水量比は1:4。この砂川左俣は、水量こそ少ないが、小滝が連続して現われる。砂岩質で滑りにくい、もろいようだ。トイ状の10m滝は右岸を捲くが、岩がもろいうえ浮いているので苦勞する。

やがて水も濁れてヤブに入る。登るに従い、ヤブは濃くなるが、30分程で豪士峠付近の小ピークに出る。ここには1本松が立っていた。このあと豪士山の北面の山道めざしてヤブをこぎ、あとは踏跡をたどって豪士山の山頂に立つ。帰路は豪士峠から中和田への踏跡を下った。(記・)

[タイム] 遡行開始(9:45)→二俣(9:55)→稜線(11:45)→豪士山(12:15)

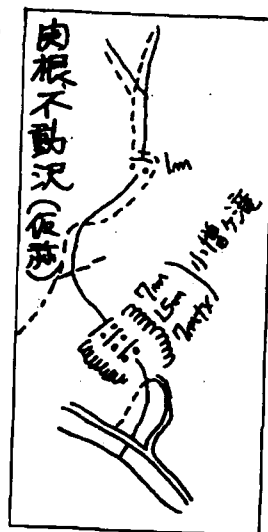
吾妻山の沢

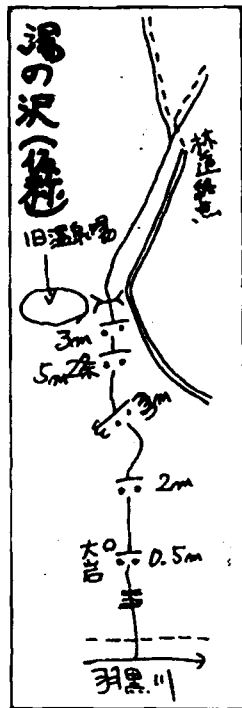
関根不動沢(仮称)

1990年9月22日

林道と関根不動沢(仮称)の出合から遡行開始。出合は極めて貧弱である。出合のすぐ上流で農業用水の取水が行われていることもあって、水はほとんど流れていない。農業用水の取水口から上流は、きれいな水が流れている。

出合から5分も遡ると小僧ヶ滝に出る。小僧ヶ滝は3段からなる滝で、最上段は下からは見えない。1段目と2段目の間に不動明王像が置かれ、2段目右岸の岩窟状部分に不動明王を祀る祠が置かれている。祠へは右岸から鎖場を伝って踏跡が続いているが、今日はこの滝を登ってみることにした。まず1段目。ここはナメ状でフリクションをきかせて簡単に登れる。2段目は左岸から取り付き、中間で右岸にトラバースして滑りやすい半草付を不動明王の祠の前にぬけ、そこから側壁下部をトラバース状に進んで2段





目落口へぬける。岩は花崗岩だが、ヌルがついていていやら
 しかった。3段目は登れず、左岸を捲く。

小僧ヶ滝の上は急に平凡となる。杉林の中を細いミゾ状の
 流れとなって流れるだけ。出合から30分遡行し、沢が2つに
 分かれた所で遡行終了とする。 (記・)

[タイム] 出合(6:00)→小僧ヶ滝(6:05)→遡行終了(6:30)

湯の沢(仮称) 1990年9月22日

羽黒川との合流点から遡行開始。小さな沢だが、水はきれ
 いだ。少し遡ると小滝が出てくる。落差が小さいし、スタ
 ス、ホールドが豊富なので、いずれの小滝も簡単に越える。
 5つ目がこの沢最大5mの滝。2条に分かれて流れ落ちている
 滝で、その中央部分を登る。滝の中間に直径3cm程の穴が
 ある。最初は別に気にしなかったが、登っていく途中で顔を近づけたらイオウの
 臭いがした。噴気口である。この穴から流れ出る微量の水にもイオウ分が含まれ
 ているのか、岩場がそこだけ白く変色していた。

このあと小滝1つを越えると、古い橋があり、右岸はちょっとした広場になっ
 ている。地図に温泉記号のある所である。昔は温泉宿があったとかで、今でもコ
 ンクリートの基礎などが残っている。その一角に柵で囲った部分があり、中に鉄
 板でふたをした井戸状のものがある。耳をすますと、その内部で水が流れるよう
 な音がしている。ここが温泉の湧出口だったのだろうか。

このあと沢は全く平凡となる。やがてブッシュもかぶさった細い流れと変わる。
 出合から45分遡ったところで遡行終了とする。 (記

[タイム] 出合(6:45)→旧温泉場(6:55)→遡行終了(7:30)

大石沢 1990年9月22日

羽黒川を渡渉して、8:10遡行開始。出合からみた感じは、暗い樹林帯を一気に
 突き上げており、期待がもてそうである。出合すぐに右へ支沢を分けると4mの